

第10回岩手県スポーツ推進審議会議事録

日時：平成28年7月7日(木) 10:00～

場所：岩手県庁12階 特別会議室

出席者

○スポーツ推進審議会委員

古舘英彦委員	高橋光彦委員	清川義彦委員	照井大道委員	菊池幸子委員
高橋敦子委員	上濱龍也委員	菅 義行委員	村田奈々委員	小沢みさき委員
鈴木美智代委員	土信田有紀委員			

○岩手県

政策地域部政策推進室 畠山特命課長
保健福祉部障がい保健福祉課 駒木障がい福祉担当課長
国体・障がい者スポーツ大会局総務課 石木田主幹兼企画広報担当課長

○岩手県教育委員会

高橋教育長 スポーツ健康課八木総括課長 渡辺施設・学校健康担当課長
谷藤国体選手強化担当課長 星野特命課長 神久保主査 川村主査
森山主任指導主事 日野澤主任指導主事 村田主任指導主事 廣澤主任指導主事
佐々木主任指導主事 三浦主任指導主事

(渡辺担当課長)

本日は、委員13名中、過半数となる12名の出席ですので、「岩手県スポーツ推進審議会条例第4条第2項」の規定により、本会議が成立していることを報告します。

なお、「審議会等の会議の公開に関する指針」により、本日の会議は全て公開となりますので、予め承知くださいますようお願いいたします。

1 開会

(渡辺担当課長)

只今から、第10回岩手県スポーツ推進審議会を開催します。
はじめに、高橋教育長から御挨拶申し上げます。

2 教育長挨拶

(高橋教育長)

岩手県スポーツ推進審議会の開会に当たりまして、御挨拶申し上げます。

はじめに、この度の熊本地震と大雨災害でお亡くなりになられた方々に対し、心からお悔やみ申し上げますとともに、被害に遭われた全ての皆様に御見舞い申し上げます。

さて、委員の皆様には、お忙しい中、御出席いただきましてありがとうございます。審議会の委員につきましては、本年度が改選期となっておりますが、公募選考のお二方を含め、13名の皆様方に委員をお引き受けいただいたところであります。改めて、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

また、日頃より、皆様方には、それぞれのお立場から、本県のスポーツ振興に御尽力いただくとともに、多大な御指導を賜り、厚く御礼を申し上げます。

本県におきましては現在、10月に迫りました希望郷いわて国体の本大会ならびに希望郷いわて大会の成功に向け、多くの関係者の皆様方の御支援をいただきながら、開催準備や選手強化等にサポートをかけているところであります。いわて国体・いわて大会の開催を通して、東日本大震災津波からの復興に御支援をいただいた全国の皆様には、復興に向かって前進する本県の姿をご覧いただくとともに、感謝の気持ちをしっかりと伝えてまいりたいと考えております。

さらに、昨年度策定いたしました「いわて県民計画第3期アクションプラン」において重点施策として取り組んでおります「健やかな体を育む教育の推進」と「豊かなスポーツライフの振興」についても一層進めて参りたいと考えております。

本日は、これまでの取組の成果と課題、諸事業の進捗状況を報告させていただくとともに、国体と大会後の本県スポーツ振興のあり方等について、委員の皆様から御意見や御助言をいただきたいと存じます。

今後とも、皆様それぞれのお立場から、本県の豊かなスポーツライフの振興に向けた取組が一層図られるよう御支援、御協力をお願い申し上げます。開会にあたっての御挨拶といたします。

3 委員紹介

(渡辺担当課長)

委員の皆様には本年6月の改正に伴いまして、6月23日付を以って就任をいただいているものです。

ここで委員の皆様のご紹介をさせていただきます。(名簿により委員紹介)

続いて県側の主な職員を紹介します。(教育長、総括課長、担当課長、関係部局担当課長)

高橋教育長は所用のため中座させていただきます。

4 会長選出及び会長職務代理者指名

(渡辺担当課長)

続いて、会長選出及び会長職務代理者指名です。

はじめに会長の選出です。

「岩手県スポーツ推進審議会条例第3条第1項」におきまして、審議会の会長は委員の互選によると規定されてございますが、いかがいたしましょうか。

事務局案をお示ししてよろしいでしょうか。

(異議なし)

事務局案は、会長を「岩手県体育協会副会長兼理事長の高橋光彦委員」にお願いしたいと考えております。

(異議なし)

(渡辺担当課長)

それでは会長を高橋光彦委員にお願いいたします。

続きまして、会長の職務代理者の指名でございます。「岩手県スポーツ推進審議会条例第3条第

3項」によりまして、会長からご指名をお願いいたします。

(高橋光彦会長)

職務代理者の指名についてですが、「岩手大学教授の上濱龍也委員」をお願いしたいと思います。

5 会長挨拶

(渡辺担当課長)

続きまして、高橋光彦会長よりご挨拶をいただきます。

(高橋光彦会長)

ただいま、皆様からご推挙をいただきまして、会長を務めることになりました高橋でございます。6月から川口前理事長の後任としてお世話になることになりました。皆様方からのお力添えとご協力をいただきながら、本審議会を進めてまいりたいと考えております。

先程来、教育長からもお話がありました。希望郷いわて国体まであと86日、水泳競技会まで59日、いわて大会までは107日という日数になりました。また、リオ五輪が迫ってきていることや、本県出身の競歩の高橋英輝選手の活躍などが期待されることから、県民のスपोर्टスへの関心は、ますます高まってきていると感じております。各分野の代表かつエキスパートである皆様方からご意見をいただいて本会を進めていきたいと考えております。よろしくお願いいたします。

6 議事録署名人選出

(渡辺担当課長)

ありがとうございます。

これより先の議事につきましては、高橋会長に進行をお願いいたします。

(高橋議長)

それでは、次第に従いまして、進行させていただきます。

次第6の議事録署名人の指名でございますが、清川義彦委員と、高橋敦子委員をお願いしたいと考えておりますが、よろしいでしょうか。

(異議なし)

7 報告

(高橋議長)

それでは次第7の報告に入ります。

(1) いわて県民計画「第3期アクションプラン」に係る進捗状況について、事務局から説明をお願いします。

(1) いわて県民計画「第3期アクションプラン」に係る進捗状況について

(八木総括課長)

資料により報告

(高橋議長)

ただ今の事務局の説明について、質問等ありませんか。

(菅 委員)

今年度から始まった運動器健診に係わっている一人として、実は、四肢の機能、側弯症及び体のバランスや体が硬い子などの運動器機能は、肥満との関係がすごくあると思っております。特に、岩手は肥満傾向が高く、平成 27 年度は中学校レベルが高かったと思いますが、少しずつ改善しているとはいえ、肥満と運動との関係への対策を練っていかないといけないと思います。

そこで、運動能力でD E段階の子は、多分肥満度が高い、あるいは、A B段階は多分肥満度が低い、といったデータ関係をアピールして、肥満度を減らす目標値を示すなどの対策をとっていかねばならないと考えます。他にも肥満の問題は、学校の統廃合や日頃の生活習慣と関係してきますが、そういう全体的な対策の中に、スポーツを関係付けた対策というものを、ぜひ入れていただきたいと思えます。

少し話が飛ぶかもしれませんが、北上で小児習慣病向けに運動をやっている、栄養士と小児科の先生がアトバイスをしてあげているようです。しかし、栄養士は運動との関わりがちよつとよく分からない。県の方で、スポーツ栄養士、管理栄養士などの活動も支援していただくことによって、こういうメニューにも影響してくと感じております。ただ、スポーツ栄養士はまだ始まったばかりですし、県及び各地域によってアクションを起こしていただくと、変わっていくと考えますが、いかがでしょうか。

(八木総括課長)

岩手県の肥満度については、学年によっては思わしくなくともあり、北海道、東北の各県共通の悩みとなっております。これは、特に冬場の運動機会が少ないことが要因にあると思われますが、運動は肥満度を解消する有効な手段と捉えており、昨年度から「60 (ロクマル) 運動」という、お手伝いでも何でもいいので、家庭、地域と連携し、本人にも意識させながら、とにかく体を動かしましょうと、キャンペーン的に進めております。今年は国体もあり、子どもたちが体を動かす機会も増えると思いますので、来年度以降、成果が表れると期待しているところです。

また、スポーツ栄養士を含めた医・科学面については、非常に重要と考えており、当課でも、学校の部活動に医・科学スタッフを派遣する事業を行っており、昨年度は、高校に栄養士を派遣して研修を行った例もございます。そのような機会を今後増やしていきたいと考えております。

(高橋議長)

今の報告の中では、ほとんどが目標値を上回っており、2点ほど下回ったものについても、1点は正当な理由があり、また、もう1点は課題として報告されておりますので、ぜひ、28年度は少しでもポイントが上がる形で進めていただければと思います。

それでは、(2)平成 28 年度スポーツ健康行政の概要について事務局から説明をお願いします。

(2) 平成 28 年度スポーツ健康行政の概要について

(八木総括課長)

～事務局説明～

(高橋議長)

ただ今の事務局の説明について、質問等ありませんか。

(菅 委員)

1点お願いしますが、幼稚園の事業というのがありますか。

(八木総括課長)

ありません。

(菅 委員)

今、医学的には、神経系というのは小学校に入ってからでは遅いのではないかと言われております。幼稚園や保育園の時に、神経系をつくる動きをしていきましようと言われていますが、東京辺りでは、外に出ると危ないので運動しなくなってきた、などと今回の運動器健診の時に話が聞こえてきます。岩手はどうかと聞いたら、結構遊ばせていることですが、実は、そこで家庭も含めて活動していかなければいけないと感じています。

県でも、幼稚園と保育園では管轄が違うこともあり、また、北上市でもいろいろ課題があるようです。その際に、ぜひ幼稚園や保育園の先生方も含めたアピール、もちろん家庭も含めて、ぜひ神経系の活性化という観点でお願いしたいと思います。

もう一つ、予防という観点から、体が硬い子やバランスが悪い子、運動をしない子などに、今、スポーツ傷害、疲労骨折などの怪我がすごく増えてきており、それが今回の運動器健診の始まりだと思っております。そういう面から、ぜひ、体の硬い子に対して、学校の先生方、特に体育の先生方に対して、そういうところを予防することが運動による怪我が少なくなるという活動を含めて、ぜひ研修会などでもよろしくお願いします。腰椎分離症は疲労骨折で、中学校2年生がピークですので、そういう活動を入れることによって競技カテゴリーにつながるのではないかと思います。

運動器健診を契機に、体が硬い子、特に中学生でクラスの男子の半分は床に手がつかないという子が实际いますので、そこに目をかけて岩手県なりの活動をすることによってずいぶん変わってくると思いますので、また、そういうところに今回の運動器健診の意図がありますので、ぜひよろしくお願いします。

(八木総括課長)

現在、学校体育のところ、保育園や幼稚園の指導者を対象に、運動能力を少しでも高めるための講習会に参加させたりしながら、いろいろなアドバイザーをさせていただいております。また、スポーツ医・科学サポーターの面でも、要請のあった幼稚園や保育園にトレーナーを出かけて、そういう面でお話をさせていただいております。こういう機会をどんどん持ちながら、さらに要望に答えるだけではなく、こちらからアプローチしていくという形も必要かと思っております。他部署とも連携しながら進めてまいります。

体が硬い子が多いことについては、やはり子供の頃からの柔軟性というのは非常に重要だと思っております。今回、運動器健診に関して、体育教員が事前のスクリーニング調査をしたという部分で、この実態を把握するには非常にいい機会だったと思っております。そういった実態を体育教員も知っており、現在、研修等も行ってまいりますので、その中で、柔軟の重要性等も伝えながら改善に努めてまいりたいと思っております。

(普 委員)

今、団体に向けて頑張っているトレーナーなど、現場で活動している方を活用することによって次にも繋がると思いますので、よろしく願います。

(高橋議長)

それでは、次に(3)第71回国民体育大会冬季大会の結果及び本大会の開催について、事務局から説明をお願いします。

(3) 第71回国民体育大会冬季大会の結果及び本大会の開催について

(八木総括課長)

～事務局説明～

(高橋議長)

ただ今の事務局の説明について、質問等ありませんか。

(質問等なし)

(高橋議長)

次に(4)平成28年度全国中学校体育大会について、事務局から説明をお願いします。

(4) 平成28年度全国中学校体育大会について

(八木総括課長)

～事務局説明～

(高橋議長)

ただ今の事務局の説明について、質問等ありませんか。

(質問等なし)

(高橋議長)

次に(5)その他として、事務局から資料が配布されています、「ラグビーワールドカップ2019 釜石開催準備委員会の設立について」、事務局から説明をお願いします。

(5) その他 「ラグビーワールドカップ2019 釜石開催準備委員会の設立について」

(政策推進室 畠山特命課長)

～事務局説明～

(高橋議長)

ただいまの説明につきましては、報告のみとさせていただきます。

以上で報告を終了させていただきます。

8 意見交換

(高橋議長)

続いて、8の意見交換に入らせていただきます。

(1) 希望郷いわて国体・希望郷いわて大会後のスポーツ振興について、事務局から説明をお願いします。

(1) 希望郷いわて国体・希望郷いわて大会後のスポーツ振興について

(八木総括課長)

資料により、「希望郷いわて国体・希望郷いわて大会後のスポーツ振興について」説明。
～事務局説明～

(高橋議長)

国体後の選手強化と国体後の生涯スポーツ振興について、たたき台という形で提示されています。委員それぞれのお立場、また、お立場を超えてでも構いませんので、ご意見をいただきたいと思えます。

始めに、国体後の選手強化について5つの柱が示されておりますが、いかがでしょうか。

(清川委員)

高体連では、今、国体に向かって一生懸命やっております。とても盛り上がっております。そして、国体を成功させるためにも、まずインターハイで成果を上げようと思っております。ただ、国体をピークとするのではなく、国体後も、まず高校生が中心となり、引き続き岩手の競技力を向上させよう、強化体制をしっかりと意識が各指導者につながり定着してまいりますので、これを何とかものにして、実現させるよう取り組んでいきたいと思っております。

これまでも、様々な少年のスポーツについて御支援をいただいておりますが、特に、現場ではアスレティックトレーナーの派遣効果というのが非常に浸透していて、それが競技力に繋がっております。特に、指導者はもちろんですが、国体の強化選手になっていく少年種別の選手たちが、実際そういう声を上げています。まずは、この部分の拡充・充実というのを引き続きお願いしたいと考えています。

また、指導体制というものが、せっかく確立されているのですから、これを維持していくためにも、引き続きジュニアから中学校、高校、そして成年に向かうところの体制を強固にするためにも、まず、その核となる中高、ジュニアの指導体制を確立するため、中高連携ということになるかと思いますが、高体連としても新たな取組ということで検討しているところですので、引き続き、御支援、御指導をよろしくお願いいたします。

(照井委員)

5つの柱として示されている3番と4番に関わって、国体後のイメージとして思っている事についてお話しします。

国体に向けて成果が表れてきているということで、楽しみにしておりますし、今後協力していきたいと考えています。終わった後どうしていくのかということだと思っておりますが、先ほど指標に示されていた国体後の順位の目標として、次の年は10位台、その次は20位台ということで、予算は少なくなっていると思えますが、予算がなくてもこれまで築いてきた強化のシステムはできるだけ残すというスタンスでお願いしたいと思っております。小・中・高、そして一般につなが

る各競技団体のシステムが国体を通してできてきたと感じています。

それにプラスして、医・科学の面でのサポートも充実してきました。これまで構築されたものを、いかに財産として限られた予算の中で残していくかということを、ぜひやっていただきたいと思えます。中体連独自の財源も、義務教育でもあり難しいので、これまでのシステムは継続していただきたいと思えます。

また、指導者育成にも関わりますが、長期的視野に立った施策として、例えば、スーパーキッズの取組を通じて、オリンピックや日本一という成果も出てきていると思えますが、もう少し先の視野に立つと、今は子どもたちですが、将来、大人になって指導者の立場に立つて、スーパーキッズで学んだことを、次の世代の子どもたちに伝えていくという視点で事業を継続してほしいと思っています。将来の指導者の種をまいている事業であるという視点で、継続していただきたいと思えます。

(高橋委員)

資料36ページの「夢と活力を与える」というところで、小学校では、これまでもたくさんの方に来ていただき、間近で競技を観たり、夢を与えてもらったりしてきました。今度、国体が始まることによって、さらに観る機会ができると思います。今度の国体でも、家族で冬の国体を観に行ったと子どもたちから聞いています。

今、子ども達の興味や関心が、いろいろなスポーツに向いている状況ですので、ぜひ、国体後も夢を与える活動を続けていただけると、将来のアスリートがたくさん増えていくのではないかと期待しています。

(菅 委員)

現在、県体協の医・科学委員として、また、整形外科の面からも、作山先生、高橋一男さん、佐々木健次さんなどにバックアップしていただいています。予算の問題もあると思えますが、医・科学サポート的なものをより充実させていくことで、指導者の育成など含め、いろいろな面で良くなっていくと思えます。

震災の影響により、予定されていた医・科学センターが凍結状態と聞いています。将来を見込んで、いろいろな方が医・科学サポートをすることが、長い目で見て、岩手のスポーツの力を維持する意味からも、スポーツの機能を集約するかたちをとっていただくことが、岩手から全国へ発信することにもなるのではないかと思います。医師会としても、バックアップしていきたいと考えております。

整形外科医でも学校の健診に関わってきている現状があります。岩手医大の整形外科の教授にも医・科学の委員になっていただいているなど新たな繋がりも使っていくことで、物事が変わってくるのではないかと思います。

(小沢委員)

選手の目線からお話させていただきます。私はホッケー競技ですが、スポーツ医・科学については、すごく恵まれた環境だと思っています。その恵まれている環境で満足しているわけですが、もう一つ上を言うと、帯同してくださるトレーナーさんに、さらに専門性を勉強していただけるものと良くなるのではないかと思います。私達のトレーナーさんは、陸上競技とホッケーを担当しており、陸上競技の知識をホッケーに入れていただけるのもすごく勉強になっていますが、

今教えてもらっていることが前から知っていることや別のところでやっていたということもあるので、もっと専門性と新しい知識を入れていただきたい。そのために他の都道府県のトレーナーさんと交流を持っていたかどうか、情報収集をしていたければ、さらに向上していただけるのではないかと思います。

菅委員もおっしゃっていたとおり、施設の問題もあるかと思いますが、今後もワールドカップやオリンピック等もありますので、できる限り充実させていただければ、岩手の選手が県外に出ることなく、岩手で強くなれる環境ができるのではないかと思います。

岩手国体があり、その後2019年にワールドカップがあり、その後に東京オリンピックがあります。この流れを体験できるのは、岩手の子ども達だけだと思います。目の前でトップレベルの選手のプレーを見て、刺激を受けて、といった段階的なものが、岩手の子ども達はすごく恵まれていると思うので、ぜひ、そういうものを目にする機会を与えて欲しい。私も、競技を見てすごく刺激を受けますし、実際に、岩手町は前回の国体で培ったものを今までずっと残してきて、団体では上位に入れるような結果を残させていただいています。これは、前の国体の人たちが頑張つて残してきたものだと思うので、それぞれの市町村の方が土台にして、今後に繋げていただければ、県内で強くなる選手がたくさん出るのではないかと思います。

(村田委員)

私は、障がい者水泳に携わっており、現在選手としてやらせていただいております。障がいを持ってしまった、もともと持っているという方がスポーツをできるというのは、すごく恵まれたことだと思っています。障がいを持っていると、気持ち的に落ち込む方もいるし、やりたいけれども病気の関係でできないという方も多くいらっしゃいます。

障がいを持った人で、スポーツをやっている方は結構いるのですが、なかなか芽が出ません。私達にも広報的なツールがあまりないので、アピールをしてもうまく伝わらないというのが現状です。今は、障がい者社会参加推進センターというところが中心的に動いてくださっていますが、県内の陸上や水泳、他のスポーツチームも広報的なところが課題の一つだと思っています。

私は、途中から障がいを持ってしまったのですが、もともと健常だったこともあり、健常者とスポーツをしたいという意思はすごくあります。でも今は、障がいを持った方が健常者と一緒にやりたい、一緒の場所で練習をしたいと思っても、なかなかそれができない環境です。建物などハード面の問題が大きいと思いますが、今後やりたいというニーズはすごく出てくると思います。

県の水泳連盟には、今年度から障がい者部門ができ、私も含め、たくさん障がい者のスイマーさんが活動していることを認めて下さいました。今年の初めには、元オリンピック選手の方に泳ぎ方を教えていただくスイムクリニックというものに、私と、もう一人障がいを持った方で、今回初めて参加させていただきました。手足が欠損している方や知的障がいの方、障がいを持っていてできないことはあるけど可動域が狭いだけで、身体は補って動こうとしている方もいます。教える側も、どう教えて良いか分からないというのもあると思います。教える方も、教えられる方も、お互いに「見えない壁」を壊せたらいいなという思いはあります。

(菅 委員)

今のご発言に関連して、7月2、3日に岩手県医師会総会の総会で、河合淳一さんに二戸でご講演をいただきましたが、その中で、パラリンピックを作ったグッドマン博士という方の「失ったものを数えるな。残されたものを最大限に活かせ。」という言葉がありました。悲しむだけでなく、今、

元気でやれること、できるところを伸ばしていきましよう、夢を持って頑張っていましよう、という素晴らしいご講演をいただきました。その後、小児科の先生から、「今の子ども達は活かせるところを活かしていない、元気にやれるところを元気にやっていない」、言葉は悪いけれど、障がい者が頑張っている姿を示してあげること、子ども達にアビールすることができないのではないか、というお話をされました。

もう1点、整形外科の立場で言うと、障がい者の視点で物事を見るということは、実は、将来自分が歳をとっていったロコモの世界、いろいろ身体が不自由になった世界に繋がることになります。障がい者に目を向けることで、岩手の将来の高齢化社会の物事に繋がっていくと思います。卓球も座ってやるなど、楽しみを広げている方も多くいらっしゃいます。指導者も、障がいを持った方に視点をあてると、将来に対する考え方が変わってくるのではないかと思います。県の方でも、ぜひバックアップしていただきたいし、我々の立場からも何かしていきたいと思いますので、今後ともよろしく願います。

(上演委員)

本学の卒業生で、狩野君というパラリンピックのスキー競技の金メダリストがいます。彼が学生するとき、専門のトレーニングは山でやっているのだからなのですが、日常の基礎トレーニングは、陸上競技場のトラックを専用の車いすで走ったり、あるいはウエイトトレーニングなどを他の学生と一緒にに行ったりしていました。その時感じたのは、むしろそういう環境が大事なんじゃないかと。

普段それぞれの競技者は、自分と同じ種目を、同じ仲間でトレーニングしていますが、一定の制限を持った中でトレーニングをする。その中に、すごいヒントや刺激がある。こういうふうになればこういう効果があるなど、我々が気付かないところを教えてくれる。そういうことも含めて、多様な競技をやっている人、あるいは障がいを持った人とそうでない人、そういう様々な人と関わりながら競技に取り組んでいくことによって、自分の競技に対する見方が変わったり、トレーニングの仕方に対して考えなければいけないことがあったり、選手自身の気付きにすぐ繋がると思います。選手自身の力だけでは、なかなかそういうシーンは組み立てられないと思うので、ぜひそういう多様な交流をしながら、高いレベルでトレーニングをしていく場ができてくると、これから先いいのかなと思います。そういう意味では、国体があり、オリンピックがありというこの時期というのは、いろいろな垣根を取り払いながらその先を目指していく良いタイミングであると、皆様のお話を聞いて感じました。

幼稚園児からシニアまで続く、まさに将来を見据えるという観点で見たとときに、今回の国体で一貫指導や指導者の意識というものが変わり、また、たくさん予算も付いたので、学ぶ機会というのも増えたと思います。しかし、そこで満足して良いレベルだとは決して思っておりません。ようやく入口に着いたというところです。

学校で言えば、小・中・高の先生方の交流や意見交換を重ねる中での先を見据えた指導、今、この場限りで終わらせる指導ではなく、これを機にもっと先を見据えていくという高いレベルの意識付けを今後も継続して行ってほしいと感じております。そうしなければ、せっかく医学・科学のサポートがありがたいと分かったとしても、ただそれを利用しているだけになります。指導者側が、今見ている中で分からないことを、トレーナーやドクターの方が教えてくれる場面もあります。それだけで終わらず、この子たちをいつ花開かせてやりたいのか共通認識を持ちながら、これを機にいろんな指導者が交流して、先を見据えて、という形にしてほしいと思います。

そういう意味では、幸か不幸か、岩手には小規模校がたくさんあります。そのため、小学校のスポーツ少年団でも、中学校の部活動でも、好きとか嫌いではなく、選択肢がないような学校がたくさんあると思います。でも、それは、むしろ本人がやりたいことではない種目をあえて体験できる場でもあります。その時教えた先生は、将来その子から「あの時、このスポーツをやって良かった」と言ってもらえるような指導、そういうものを目指していきけるような体制ができると思います。スーパークイズにも関わっています。岩手の子は、全国的にみても宝のような、すごく基礎能力の高い子供がたくさんいます。その子供の埋もれている力を伸ばしていきける体制づくりを、縦にも横にも繋がりがりながらできるとうれしいなと思います。

(古館委員)

まず一つには、県内から、将来のオリンピックピック選手や日本代表選手が数多く出てほしいと思いますし、その数が増えそうだという報告をありがたいなと思って聞いていました。また、そういう選手になった人達と、今の子ども達が交流できる場も設けてほしい。やはり刺激になります。先ほど人数も報告されておりましたが、もっとそういう選手をPRする場面があってもいいと思います。そして、一般の人達、特に子ども達と触れ合うような、そういった場面も考えてもらえればいいなという感じがします。

二つ目は学校の先生についてです。今、日本の学校の先生は忙しい、超過勤務云々などと、いろいろ言われています。さらに、岩手の先生方は真面目で、もっと頑張る先生が多いので、疲弊している先生も多いかもしれません。やはり、先生方の勤務を何とかしてやりたい、多忙化解消という面もあります。ただ、一生懸命やりたい先生もいるし、本当はできないけど担当を任されているという先生も当然おられます。その辺を何とかする方策が必要です。これからどんどん少子化で、学校の先生の数も少なくなっていく。部活動を一人で受け持つ、男女両方とも見ていく、といった状況がますます出てくる。いくら校長会で、土日どちらかは休みましようと言っても、実際ががんばってやっているとは思いますが、厳しい面もあると思っています。

国では「チーム学校」ということで、部活動指導者も職員に入れるなど、法改正も視野に入れているようですし、今は、必ず顧問が監督でなければならぬが、全国では条例を作って、指導者が引率もできるというところもあるように聞いています。そういった先生方をサポートするクラブ指導者というものを、今後、国ではある程度立ち上げてくると思っていますので、率先してそういった情報を得られて、そして普及に繋がるようなことを、岩手で考えてみてほしいと思います。

(土信田委員)

私は、現場で幼児期からの体育の指導をしています。その傍ら、フィットネスの現場でエアロビクスのインストラクターとして仕事しています。小さい子から、動ける元気な大人の方まで携わっている仕事に就いていますので、これまでのお話を伺いながら感じたことをお話しさせていただきます。

今回、国体が終わった後どうするかという話ですが、今バンブレットを見たところ、自分が知らない競技や、デモンストレーションスポーツなど、たくさん競技種目が各市町村に配置されています。メジャーでない競技も含まれていますので、身近な遊びのような、レクリエーション的なスポーツがあるんだなということを知っていただき、国体の後も、市町村のカラーを出しながら、もっと続けていただきたいというのがあります。国体が終わったからもうやめませんとい

うのではなく、もっと県民の皆さんに知っていただき、継続していただきたいというのが1点です。

それと、県のジュニアサッカーサポーターの事業にも携わっていますが、地域によって集まる子ども、興味の持ち方などが違うと感じています。約20年ぐらいいこの仕事をしながら子ども達をよく見ているつもりですが、今の子ども達は、柔軟性など運動機能の面が劣ってきていることを感じます。子ども達にとって生涯使う体ですから、早い段階から指導者の方には、小学校、幼稚園と掘り下げて学んでもらう機会をたくさん与えていただきたいと思えます。

また、小学生に運動を教えるについて「私が行く中学校には、その部活が無い」という子が結構います。やはり、子どもにとってそれしか選択肢がないということが、悲しい、寂しいことだと思えます。監督やコーチをできる担当教員がいないということが、部活動を充実させることが難しくなっている要因だと感じていきますので、担当外のことでもできる、あるいは、いろいろな種目に通じる指導ができるような環境を作っていたいただきたいと思えます。そこを強化していけば、バレーボールだけ、野球だけ、サッカーだけではなく、いろんなやりたい競技ができる、突き詰めた種目で伸びていくはずですので、そこを強化していただきたいです。

(高橋議長)

様々ご意見をいただいたことについて事務局で検討願いますとともに、各種取組に活かしていただくようお願いします。

次に、(2)のその他になりますが、事務局から何かありますか。なければこれで意見交換を終らせていただき、議長の任を解かせていただきます。ご協力ありがとうございました。

(渡辺担当課長)

高橋会長ありがとうございました。

9 その他

(渡辺担当課長)

続いて、9のその他ですが、委員の皆様から何かございますか。

(なし)

次回の審議会は、来年1月25日水曜日に、この会場で予定しております。

10 閉会

(渡辺担当課長)

以上を持ちまして本日の審議会を終了させていただきます。ありがとうございました。